シンポジウム報告

愛知東邦大学 地域創造研究所シンポジウム
「真の「働き方改革」とは何か -人を大切にする経営を考え

愛知東邦大学地域創造研究所では、2020年2月8日、ホテル名古屋ガーデンパレスを会場に、フレンズ・TOHOと「人を大切にする経営学会」の後援を得て、シンポジウム『真の「働き方改革」とは何か -人を大切にする経営を考える-』を開催した。シンポジウムでは、「人を大切にする経営」を理念に掲げ、「働き方改革」を実践し成果を上げている2つの企業事例などから、真の「働き方改革」とは何か、これからの企業経営はどうあるべきかについて議論を展開した。会場は、約80名の参加者を得て、熱気に包まれた。

冒頭の開会挨拶で、地域創造研究所の上條憲二所長（経営学部教授）が「本日の講師の方々の講演で共通しているのは「幸せ」という言葉。働き方改革で大事な言葉なのでは」と述べた。開会挨拶の後、同研究所の今瀬政司副所長（経営学部准教授）、沢根スプリング株式会社（静岡県浜松市）の沢根孝佳代表取締役社長、株式会社ネオレックス（名古屋市）の駒井研司CEOの3人の講師がそれぞれ講演を行った。

今瀬副所長は、シンポジウムの開催趣旨とパネルディスカッションの論点出しとして、「「働き方改革」とこれからの企業経営のあるべき姿」をテーマに講演を行った。初めに国の「働き方改革」の取組みを概観した後、「人を大切にする経営学会」（会長：坂本光司元法政大学大学院教授）とその学会による「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞の表彰制度を紹介した。その上で、今瀬副所長は、「「働き方改革」とは、「人が幸せになる」ための経営と働き方に変えること」、「これからの企業経営のあるべき姿は、「人が幸せになること」をめざして独自の経営理念を掲げ、それを実践する経営と働き方を行うことで、好業績をもたらすこと」と述べた。

沢根社長は、「沢根式「楽しみ方改革」で幸せな働き方を創造する！」をテーマに講演を行った。沢根スプリングは、1966年創業のばね製造会社で、第4回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞・中小企業庁長官賞を受賞している。小口スポット品が売上の6割で「世界最速工場」をミッションにして、社員が生き生き幸せに働ける会社経営を実践している。残業は月平均6時間以下、夜勤なし、有給取得率は88%で創業以来黒字経営を続けている。沢根社長は、「働き方改革というよりも、「楽しみ方改革」を行っている」、「過酷な価格競争や効率ばかりを追い求めてストレスを感じた働き方ではいけない」、「「ものづくり（仕事）が楽しくて、心が弾むように、やりがいを感じて、のめり込めるような働き方ができているか」、「ワークもライフもハッピーに」、「どうやって儲けるかはもちろん大事だが、成長も利益も「人が幸せになるため」の手段に過ぎない」、「社員の幸せを大切にする腹八分経営で、できることをコツコツ地道にやり続けることが大事」、「業績の数字は大事であり気にな

る-」

愛知東邦大学地域創造研究所副所長
経営学部准教授
今瀬 政司

るが、決算書に書いていないことも大事」、「（人が幸せになるための経営という）正しいことを正しくやれば結果はついてくる」、と述べた。

駒井CEOは、「名古屋の小さなIT企業の"人を幸せにする経営"」をテーマに講演を行った。株式会社ネオレックスは、大企業向けクラウド勤怠システムで国内トップシェアを誇り、第7回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞・審査員特別賞を受賞している。創業32年で2代目兄弟が経営を行い、技術をとことん追求している。「部下・指示・やらせる」と言わない、メンバー（従業員）の39名は「家族」、リーダーは偉いのではなく役割だ、といったことをモットーとしており、若手従業員も生き生きと活躍している。毎朝朝礼を行い、全従業員の個人面談を年3回30分4日行い、働きやすさを追求した早出・早上がりやオフィス環境整備や研修制度等に次々と取り組んでいる。駒井CEOは、「働き方改革は、働かない改革ではない、みんなが今よりもさらに幸せに働けるように変えていくこと」、（それを目指して）「自然に、できることから、少しずつ、今すぐに、いつまでも（時に大胆に）」、「綺麗ごとを追求すれば結果がついてくる」、「（人が幸せになるための経営という）当たり前のことを当たり前にやってきた」、と述べた。

3人の講演の後、「真の「働き方改革」とは何か -人を大切にする経営を考える-」をテーマにして、上條所長のコーディネートで沢根社長、駒井CEO、今瀬副所長によるパネルディスカッションが行われた。

会場参加者からの「社員の意識改革の方法・経緯は」との質問に対して、沢根社長は、「意識改革は考えたことがない。人間は変えられない。相手を変えるより、相手を理解することが大切。社員が何を考えているか分からないから、社員の考えていることを聞いてきた」と答えた。駒井CEOは、「ネオレックスとして良いと思う誰かの取り組みを社内で紹介し続けると、価値観が共有されていく」と答えた。

「大学生の就職活動で大切なことは」との質問に対して、沢根社長は、「目に見えにくいものを会社訪問で感じて欲しい。表面的なことだけに惑わされないこと。面接の人が会社の経営理念をきちんと説明できるかも大事」、「新卒で辞めた人はいない。人事とは、採用だけでなく、採用・育成・定着だと考えている」、と述べた。駒井CEOは、「めざす会社をよく理解して、魅力を見つけてから出かけて欲しい」、「自分が進んだ道は一本道で、それが正解になる。成否は入社した後の自分次第」、と述べた。

シンポジウムの締めくくりとして、今瀬副所長は、「企業の経営と働き方では、人が幸せになることも業績を上げることも両方が必要。大事なことは、その順番を間違えないこと。企業経営は何のため、誰のために行っているのか、まず何よりも「人が幸せになるため」であることを忘れないこと」、「人が幸せになるための独自の「経営理念」を経営者と従業員のみんなが心の奥底で共有できるか」、「経営理念を実現するためには能力が必要であり、経営者と従業員が共に学び続けることが重要」、と述べた。

最後に閉会挨拶として、愛知東邦大学の榊 直樹学長（学校法人東邦学園理事長）が、「沢根社長と駒井CEOから、本日は素晴らしいお話を伺えた。心に響く言葉、参考になる言葉を次々と頂いた。学生の皆さんも心にとめて、将来の仕事に向かっていって下さい」と述べて、シンポジウムが閉会した。